

「不確実の時代」の問題解決力

— AIで安易な答えを求める弊害 —

「問題解決力（手法）」というと、どんなイメージを持っているでしょうか。

ともすると、難しい問題に対する“正解”を導き出す力というイメージで捉えている方が多いのではないのでしょうか。これは、誤解です。

昨今は“A I ブーム”です。現実の問題への解決策をA Iに聞いてみると、それらしい解答を得ることができます。ただし、あくまでも“それらしい解答”であって、唯一の正解ではありません。職場の問題は、複雑であり唯一の正解など存在しません。

しかし、ある調査によると、管理職の4割が自分の悩みをA Iに相談したことがあるとのこと。その実態は「A Iに自分の苦勞を慰めてもらっているだけ」のようです。管理職は孤独ですから、慰められることも必要かもしれませんが、それだけでは自分の役割を果たせません。まさに、管理職の自信喪失こそが真の問題かもしれません。

今は「不確実の時代」です。まさに“唯一の正解”はありません。そんな状況下で必要な問題解決力とはどうあるべきなのでしょう。

この時代に問題解決力を強化する目的は「ネガティブ・ケイパビリティ」の身につけることです。これは、19世紀のイギリスの詩人ジョン・キーツが提唱した考え方です。

「ネガティブ・ケイパビリティ」とは、簡単に言うと“**答えの見つからないモヤモヤを受け入れ、うろたえない**”ことです。この姿勢を持つメリットは以下の通りです。

1. **レジリエンス（困難、逆境からの回復力）を強化できる**
2. **自分の感情をコントロールする力が強化できる**
3. **多様性を受け入れる視点が強化できる**
4. **真のポジティブ思考が強化できる**
5. **柔軟な思考を強化できる（だめならすぐ次の手を打つ）**

私たちが子どもの頃、学校で学んだことは、この逆の「ポジティブ・ケイパビリティ」です。**正解のある問題に対し、素早く解答を見つける訓練を受けてきました。しかし、そのまま「不確実な時代」に突入し、答えが見つからないことで、自信喪失していることが現状ではないのでしょうか。**特に、自信喪失した管理職が多くなっているです。これでは、企業業績に多大な影響を与えてしまいます。

弊社の管理職のための「不確実な時代の問題解決力強化研修」では、ネガティブ・ケイパビリティを強化します。また、それだけでなく、多様な問題解決手法を身につける研修です。

また、一般論ではなく、各企業の具体的な問題をテーマにした実践的な内容で、受講後すぐに実践に移ることができる研修です。

興味・関心のある方は、まず下記からは是非ご相談下さい。ご相談・オリジナル研修の仮提案は無料でさせていただきます。

> お問い合わせはこちら

